

2 なにを食べているの

昆虫の食べ物には、植物の葉、花の蜜(みつ)、小さな虫、木や草の汁(しる)、樹液、動物の糞(ふん)、生き物の死骸(しがい)などがあります。キリギリス類やコオロギ類は、主として植物の葉を食べていますが、小さな昆虫など動物性のものも食べます。食べ物と昆虫の口の形との関係を調べてみるとおもしろいですよ。

◆植物・動物・腐食(ふしょく)・雑食

■植物の葉などを食べる

ハムシ、コガネムシ、カメムシ、バッタなどのグループが中心です。

イタドリハムシ



イタドリやギシギシを食べます。とてもすっぱい草です。成虫で越冬しますので、真冬でも草をかき分けると見つかることがあります。模様は、同じ種類でもかなり違いがありますが、だいたい色(赤黄色)の模様ですのでよく目立ちます。

マメコガネ



小型のコガネムシです。いろいろな植物の葉を食べますが、特にだいたいの害虫(がいちゅう)として知られています。この昆虫は、かつて日本から農産物にまぎれてアメリカに渡り、大繁殖(だいはんしょく)したため、農産物などを食い荒らす害虫として、困(こま)り者になっています。

ミナミアオカメムシ



いろいろな植物の汁を吸います。イネの穂(ほ)の汁を吸うとイネに害を与(あた)えます。

ニジュウヤホシテントウ



成虫、幼虫ともに食べ物はジャガイモやナスの葉などです。テントウムシはほと

んどが害虫退治(がいちゅうたいじ)の益虫(えきちゅう)ですが、このテントウムシは農業害虫(のうぎょうがいちゅう)です。名前は28個の黒い点(ホシに見立てている)があることによります。

ナガメ



アブラナやダイコンなどアブラナ科の植物の汁(しる)を、注射針(ちゅうしゃばり)のような口で吸います。カメムシという名前は、体がカメに似(に)ているからです。とくにナガメは、かたい殻(から)のようなカメの甲羅(こうら)によく似ています。名前は菜につくカメムシという意味です。

のような口で吸います。カメムシという名前は、体がカメに似(に)ているからです。とくにナガメは、かたい殻(から)のようなカメの甲羅(こうら)によく似ています。名前は菜につくカメムシという意味です。

ショウリョウバッタ



メスは日本のバッタの中では最大(さいだい)です。オスは小さくて細(ほそ)く、飛ぶときに「キチ・キチ」という音を出すのでキチキチバッタとも呼ばれています。食べ物はイネ科のススキなどです。写真はメス。



■花の蜜(みつ)を吸う・花粉を食べる

いろいろなチョウ、スズメガ類、ハナバチ、ハナアブ類などが花の蜜(みつ)を吸いにやってきます。また、甲虫のハナムグリ類などが花粉を食べにやってきます。幼虫の餌(えさ)として花粉を集めにくるハチもいます。

アオスジアゲハ



よく見かけるアゲハチョウです。花の蜜(みつ)を吸いにやってきます。動きはすばやいです。幼虫はクスノキなどで育ちます。

よく見かけるアゲハチョウです。花の蜜(みつ)を吸いにやってきます。動きは

ツマグロヒョウモン



南方系(なんぼうけい)のチョウで、以前(いぜん)は希(まれ)でした。今は、ならやまで普通(ふつう)に見られます。ツマグロというのは、はねの先が黒いという意味で、メス(写真)の特ちょうです。オスのはねには黒っぽい部分はありません。幼虫はスマレ類の植物で育ちます。

南方系(なんぼうけい)のチョウで、以前(いぜん)は希(まれ)でした。今は、ならやまで普通(ふつう)に見

オオスカシバ(ガ)



はねが透明(とうめい)な小型のスズメガです。昼間に活動するガで、飛びながらたくみに花の蜜を吸います。幼虫はクチナシの葉を食べて育ちます。

はねが透明(とうめい)な小型のスズメガです。昼間に活動するガで、飛びながら

コマルハナバチ



初夏によく見かけるマルハナバチというグループのハチです。クマバチに似ていますが、全身が毛で覆(おお)われています。このグループのハチは全身の毛で花粉を運ぶので、農業にたいへん役立っています。

オオハナアブ



よく目にするハナアブで、蜜を吸いにきます。名前にアブと付いていますが、人に危害(きがい)を加えるアブではなく、ハエに近い種類の昆虫です。

コアオハナムグリ



ごく普通に見られる小型のコガネムシで、いつも花に群がって花粉を食べています。同じ種類でも体の色に少し違いがあり、赤っぽい色のものもあります。

■樹液(じゅえき)を吸う

クヌギなどの木の幹(みき)の樹液の出ているところに昆虫が集まっています。クワガタムシ、カブトムシ、カナブン、ルリタテハ、ゴマダラチョウ、スズメバチなどです。

ミヤマクワガタ



子どもたちにたいへん人気のある昆虫で、ごつごつした姿(すがた)です。名前についているミヤマは、深山(みやま=山奥)という意味です。関西地方では、ならやまなどの里山にもいます。ただし、関東地方では、少し山地へ行かなければいけないようです。

カブトムシ



カブトムシも子どもたちの人気者です。ならやまでは野菜(やさい)栽培(さいばい)のために堆肥(たいひ)を作っていますが、幼虫は堆肥の中で堆肥を食べて育ちます。また、腐葉土(ふようど)のところにもいます。成虫は夜行性(やこうせい=夜間活動する)です。



カナブン



昼間に活動する昼行性(ちゅうこうせい)ですので、目につくことの多いコガネムシです。クヌギやコナラの樹液の出ている木には、たいていきています。体の色はだいたい色にかがやくものが多いですが、緑色のものもあります。緑色のものは、アオカナブンによく似ています。

ルリタテハ



中型のチョウです。よく樹液を吸いにきています。成虫で越冬(えっとう)し、春早くから目に止まります。はねのうらは暗い木の皮のような色で、木の幹でははねを閉じて止まっていると、たいへん目につきにくいです。



昼間に元気な虫たちの夜の姿を見たことがありますか。夜行性の昆虫を観察する

と、そこで見つかる昼行性の昆虫たちの様子も、普段とは違って興味深いです。

夜行性の昆虫たちが活動する様子を見ようとすると、深夜に行かなければならない場合もありますが、昼行性の昆虫たちが寝ている様子は、それほど遅い時間でなくても見られます。昼間には追いかけても待っていても近づけない昆虫も、じっくり観察できるチャンスです！

ゴマダラチョウ



かなり大型のチョウです。クヌギなどの樹液を吸いにきますが、落ちた果物の汁を吸っていることもあります。名前のゴマダラは、ゴマをまいたようなまだら模様があるという意味です。幼虫はエノキで育(そだ)ちますので、成虫もエノキの木のまわりでよく見かけます。

オオスズメバチ



世界的にも最大級、最強(さいきょう)のハチです。地中や木の洞(ほら)に巣(す)を作り、集団(しゅうだん)で暮(く)らします。クヌギやコナラの樹液の出ているところにきており、攻撃性(こうげきせい)が強(つよ)いので近づかないことです。特に黒いものをおそう習性(しゅうせい=くせ)のようなこと)がありますので、衣服、頭髪、目のひとみなどに注意が必要です。



「習性」(しゅうせい)とは、生まれながら身につけている性質(せいしつ)のことで、おなじような行動をすることです。

■キノコ、生き物の死がいやふん(糞)を食べる

キノコにはキノコムシ類、生き物の死がいはシテムシ類、ふん(糞)にはセンチコガネなどがやってきます。

カタモンオオキノコ



名前にオオ(大)がついていますが、体長7mmくらいの小さな昆虫で、キノコを食べます。

カワラタケ(キノコの種類)などによく来るようです。

オオヒラタシデ



ミミズの死がいを食べているところですが、生き物の死がい、腐(く)った肉などに集ま(あ)ります。自然界の掃除屋(そうじや)さんとして役立(やくた)っています。

センチコガネ



生き物のふん(糞)を食べる昆虫です。キノコにきていることもあります。生き物のふん(糞)を食べるコガネムシ類の昆虫を、糞虫(ふんちゅう)とも呼んで(よ)びます。

奈良公園のシカのふん(糞)を、掃除(そうじ)することで知られているルリセンチコガネは、ごく近い種類の昆虫です。

■生き物を食べる

生きている昆虫などを食べる肉食の昆虫は、次のように分けられます。

- ① 生きているものしか食べないもの…
カマキリ、アブ、ハンミョウ、トンボなど。
- ② 雑食(ざっしょく)で、植物も食べるもの…
キリギリス類など。
- ③ 幼虫を育てる餌(えさ)として、生き物を
狩(か)るもの…ハチなど。

コカマキリ (①)



幼虫ですが、アブラゼミをおそっています。

オオイシアブ (①)



テントウムシの
体液を吸っています。

ハンミョウ (①)



美しい中型
の昆虫です。
草の生えてい
ない地面に
いて、するど
い口で虫を捕
(とら)えます。

別の名はミチオシエといいます。人が通りかかると先へ先へと飛び立っては地上に下(お)り飛び立っては下りしますので、道案内(みちあんない)をしているように見えるからです。

ウチワヤンマ (①)



ハチをくわえています。ウチワヤンマは大きくて、オニヤンマによく似ていますが、サナエトンボというグループのトンボです。

[注]その他のトンボは別ページで説明します。

ウスイロササキリ (②)



キリギリス類のあまり大きくない昆虫です。自分より大きい獲物(えもの)をつかまえて食べています。食べられているのはコバネイナゴです。植物も食べます。

ベッコウクモバチ (③)



幼虫の餌(えさ)にするために大きなクモを狩って、巣穴(すあな)へ運(はこ)んでいます。

3 こんなところにもいるよ

◆土中にいる昆虫

ケラ



コオロギに近い種類(しゅるい)で、地中にトンネルをほってすんでいます。食べ物はミズや植物の根などです。前あしはシャベルのようながんじょうな形で、土ほりに便利なようになっています。飛(と)ぶこともできます。オス・メスともに鳴きます。鳴き声は、オスは「ブー」と長く、メスは「ビッ、ビッ、」と短く鳴きます。昆虫でメスが鳴くのはめずらしいです。

◆水中・水面にいる昆虫

池にいる昆虫は、ゲンゴロウ、ミズカマキリ、コオイムシなどで、水面にはアメンボがいます。そのほか池の中には、トンボの幼虫(ヤゴ)、水路(すいろ)にはゲンジボタルの幼虫などもいます。

ハイイロゲンゴロウ



ゲンゴロウ類の中では中型(約13mm)です。ふだんは池の中で小型の生き物を食べて暮(く)らしています。

コオイムシ



カメムシのなかまです。前あしは獲物(えもの)をつかまえるために、カマキリの前あしのように鎌(かま)のような

形になっています。食べ物は水中の生き物です。メスがオスの背中に卵(たまご)を産(う)み付けることで有名です。

ヒメミズカマキリ



ミズカマキリ類もカメムシのなかまです。姿(すがた)はカマキリによく似ていますが、まったく別のグループの昆虫です。食べ物は水中の小さな生き物です。

アメンボ



アメンボもカメムシのなかま、水面をすいすいと歩きます。食べ物は水面に落ちた生き物や生き物の死がいです。体から飴(あめ)のようなおいを出しますので、「あめん棒(ぼう)」という名前が付き、それが「アメンボ」に変わったといわれています。

◆空中に

トンボ類は空中を飛び回って獲物(えもの)を捕(とら)えています。昼間は、ほとんど飛び続けているようなトンボもいます。

オニヤンマ



トンボ類のチャンピオンです。いつも悠々(ゆうゆう)となわばりを行きまわっています。

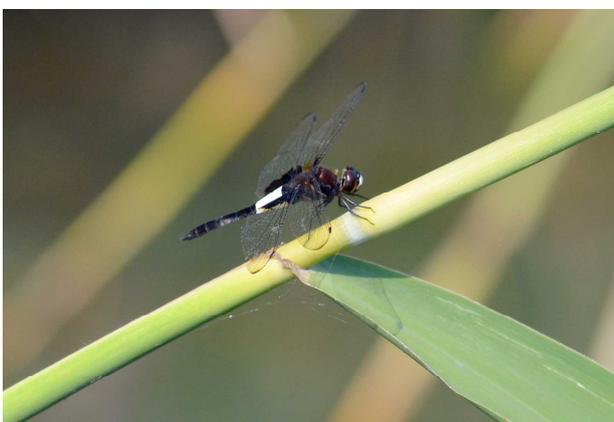
サラサヤンマ



日本にいるヤンマ類の一番小さいヤンマです。湿地(しっち)で生まれますが、すん

でいる場所が限られている希少種(きしょうしゆ)です。ならやまでは6月ごろに見られます。

コシアキトンボ



いつも上空をゆっくりと飛んでいます。飛んでいるところを見上げると、腰(こし)にすき間があいているように見えるので、「コシアキ」という名前がついています。

チョウトンボ



ひらひらとチョウのように飛ぶトンボです。ゆっくりと飛び続けます。町ではめったに

見られなくなったといわれていますが、ならやまではめずらしくありません。

アキアカネ



赤とんぼの代表的なトンボです。秋の中ごろにやってきて、秋が深まると朱色(しゆいろ)が濃(こ)くなります。

ならやまの西池にも幼虫がいて、6月下旬に羽化(うか=P40で説明)しますが、成虫はすぐに高い山の方へ移動(いどう)します。真夏は涼(すず)しい高原(こうげん)ですごし、秋のなかばに里山や平地にやってきて、私たちの目に止まるのです。

モノサシトンボ



イトトンボのなかまです。尾(腹部)に、ものさしのような模様(もよう)があるので「モノサシ」の名

がついています。



「希少種」とは、数が少なく、簡単に見ることができない、めずらしい種類の生き物で、環境省や都道府県などで指定した種類のことです。